

鵡川  
流域委員会  
ニュースレター  
第1号

第1回 鵡川流域委員会が  
平成20年3月25日に開催されました

日時：平成20年3月25日（火）14：00～16：00  
場所：むかわ町産業会館

北海道開発局では、平成19年11月に国土交通大臣が「鵡川水系河川整備基本方針」を決定したことを受けて、現在、国が管理する区間の「鵡川水系河川整備計画」を策定しています。

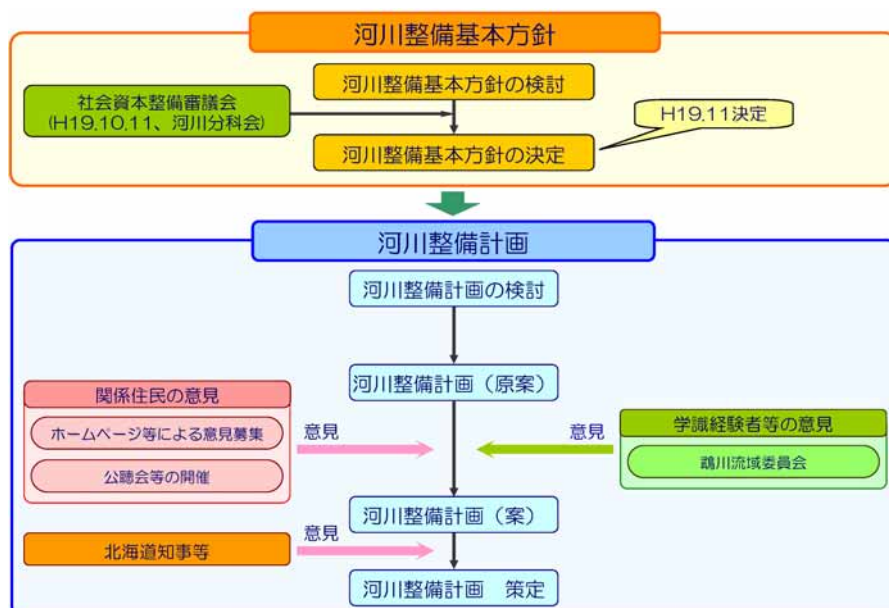
河川整備計画策定にあたり、学識経験を有する方々や鵡川流域に知見の深い方々からご意見を伺うために、第1回の「鵡川流域委員会」を設立し、下記のとおり開催しましたので、お知らせします。

【主な議事内容】

1. 鵡川流域委員会の設立にあたって
2. 鵡川河川整備計画策定の流れ
3. 鵡川河川整備基本方針について
4. 鵡川の流域と河川の概要



鵡川水系河川整備計画の策定までの流れ



# 議事要旨

## 1. 委員長の選出

委員の互選により、藤間聡委員を委員長に選出。

## 2. 鶴川流域委員会の運営要領について

鶴川流域委員会運営要領を承認。

## 3. 鶴川水系河川整備計画策定の流れ、

### 鶴川水系河川整備基本方針について

- 事務局より、「鶴川水系河川整備計画策定の流れ」及び「鶴川水系河川整備基本方針について」を説明。
- 委員の主な意見は以下のとおり。

#### 1) 主な意見

- 特になし

## 4. 流域及び河川の概要について

- 事務局より、「流域及び河川の概要について」を説明。
- 委員の主な意見は以下のとおり。

#### 1) 主な意見

- 治水事業が本格的に始まったのが昭和23年とのことだが、治水事業以前の1947年に米軍が撮った航空写真があるはずであり見てみたい。
- シヤマが昭和30年代に多かったとの話があったが、その年代に近いデータはないか。
- シヤマについては、日本固有種かつ北海道の太平洋側にしか分布していないという意味で、生物学的に見ても貴重と考えている。
- 動植物の生息・生育状況において、ニニウ付近の魚類に違和感がある。どこからとったデータか。アメマスやオショロコマが入ってくるのではないか。
- 清流日本一の記述でBOD平均値に0.5mg/Lが並んでいるが、これは分析の下限値であり、普通は0.5以下というような書き方をしないか。
- シヤマについて「レッドデータブックの地域個体群に指定されている」とあるが、別の箇所では室蘭から釧路までの太平洋岸全てを分布域としている。日高地方と釧路地方では同じ種類なのか。
- 干潟がシギ・チドリ類の重要な中継地とあるが、渡りのコースを記述してほしい。
- 地質の説明に関して、「空知-エゾ帯」と「エゾ累層群」という言葉があるが、エゾ累層群の説明がない。

- 災害の観点から交通網を見る意味でも、主要道路以外にもきめ細かい道路網を入れて、災害時の状況が具体的に分かるようにしてほしい。
- 流域の産業について、牛が農家戸数で記述されている。経営規模によって異なるので、飼育頭数の方がいいのではないか。
- 開拓の歴史で「明治時代も地名はアイヌ語で統一されていた」と記述されているが、意味が不明である。
- 主要洪水の概要では雨量が多いときに必ずしも流量が多くなってはいない。もう少し説明がほしい。また、流量3600トンの対象降雨や降雨の地域分布等、既往の洪水ではどのようなだったのかも説明してほしい。
- 洪水の被災状況の凡例は内水被害を示しているようだが、内水の危険箇所や重視すべき箇所等、内水対策に向けての資料としては不十分。
- 完成堤防でも流下能力が不足する箇所については他の工種を予定していると考えられるが、それらも説明すること。また、将来的な3600トンでの考え方も見ておいた方がいいのではないか。
- 浸水想定区域図について、破堤条件等の具体的な説明がほしい。
- 2/20濁水流量と1/10濁水流量の違いの2トンについて、水利権の見直しによるとのことだが、その実態を具体的に記述してほしい。
- むかわ町の下水整備率は分かったが、上流はどうなのか。上流のトマム橋や青巖橋で水質が環境基準値を超える場合がある。
- 海岸浸食について、人工リーフを造るなどの保全策を考えるためにも、原因についての詳しい話がほしい。
- 現在の維持管理をどのように実施しているか等の説明をしてほしい。
- 濁水期にシヤマの産卵場所が干上がらないか。
- 観光客の入り込み数について、シヤマの時期でもある11月が少ないが、実態と異なっているのではないか。
- 河川敷の利用状況を説明してほしい。採草放牧地としての空間利用が和牛等の地域産業の発展に貢献していることも分かると思う。
- 川西、川東頭首工について、利用面積が減少している状況での取水量の考え方や今後の頭首工の改善方法を議論することが、環境に効果的と考える。
- 穂別高校ではカヌーを行っているが、高校生にも川の知識や現状、将来像を教える必要があると思う。具体的に考えていきたい。
- 治水工事による成果は陸上では顕著だが、鶴川・沙流川の重要な産業である漁業については、泥流により一つの産業がつぶれるほどの被害に成っている。整備計画の中でこのあたりの対策はできないのか。
- (海域での対策は)具体的に討議できないかも知れないが、提言は出来ると思う。

## 「鶴川流域委員会」委員名簿

	新谷 康二	北海道立水産孵化場内水面資源部 部長
	岡村 俊邦	北海道工業大学工学部環境デザイン学科 教授
	黒木 幹男	北海道大学大学院工学研究科 准教授
	小坂 利政	むかわ町一級河川鶴川愛護協議会 会長
	藤間 聡	室蘭工業大学工学部建設システム工学科 教授
	長澤 徹明	北海道大学大学院農学研究院 教授
	藤田 栄	北海道穂別高等学校 校長

：第1回鶴川流域委員会出席委員、：委員長（敬称略、五十音順）

鶴川流域委員会事務局



北海道開発局 室蘭開発建設部 治水課

〒051-8524 室蘭市入江町1番地14 TEL0143-22-9171 FAX0143-22-9170  
URL <http://www.mr.hkd.mlit.go.jp/>

鶴川流域委員会の資料は、室蘭開発建設部のホームページでもご覧いただけます。